令和７年度　宮崎県立日向高等学校　学校評価

◆４段階で評価　→　４（期待以上）　３（ほぼ期待どおり）　２（やや期待を下回る）　１（改善を要する）

スクールミッション	学力育成　生徒の進路希望実現に向けた確かな学力を育成し、生きる力を育む学校 人材育成　思考力と実践力を備えた「知・徳・体」の調和のとれた人材の育成 地域貢献　地域との協働を図り、地域貢献や活性化を担う人材の育成		校訓 剛健・信愛・創造		令和７年度 学校評価		
経営方針	○　生徒一人ひとりの個性を尊重し、自他を大切に安全かつ安心して過ごせる学校 ○　生徒一人ひとりの可能性を見出し、地域・社会と連携し、最大限に伸ばす学校 ○　チーム日向として、個人の強みを生かしつつ協働できる、風通しのよい学校						
アドミッションポリシー	本校は「剛健」「信愛」「創造」の校訓のもと、スクールミッションに鑑み、仲間と共に高校生活を楽しむ次のような生徒を求めています。 (1)本校への進学を強く希望し、基本的な生活習慣が確立している生徒 (2)勉強や部活動、学校行事に全力で取り組める生徒 (3)将来に夢や志を持ち、自身の目標を定め、その達成に向けた強い意欲をもっている生徒		目指す生徒像	以下の力を身につけた生徒を育成する。 ①人間力・・・心身共にたくましく、しなやかで何事もあきらめずに挑戦し続ける力を身につけます ②自己肯定力・・・自己を理解し、可能性を信じ抜く力を身につけます ③傾聴力・・・相手の話をよく聞き、理解する力を身につけます ④探究力・・・将来の理想を掲げ、直面する課題を発見し解決に導く力を身につけます ⑤協働力・・・同じ目的に向かって、互いに高め合い共に働く力を身につけます	自己評価	関係者評価	評価コメント
Ⅰ	学習指導・進路指導・キャリア教育の充実	教務部 進路支援部 渉外図書広報部 各学年 フロンティア科 各教科	具体的取組	・授業力の向上 ・カリキュラムマネジメントの充実 ・総合的な探究の時間の活用 ・フロンティア科課題解決学習の充実 ・資格取得指導の徹底 ・図書館活用の促進	3.16	3.28	○ ICTを活用した採点業務や学習量調査など、デジタル化による業務効率化と実態把握が進んだ点を高く評価します 。今後は「日向スタイル」の確立に向けた内規の徹底と、生徒への丁寧な指導を期待します 。 ○学習量調査による課題の可視化、デジタル採点や資料デジタル化による業務効率化、計画的な校内研修の実施など、着実な前進が見られた。留学セミナー等により進路の選択肢を広げた点も評価したい。 ○生成AIを積極的に活用することで業務改善をはかり、学習指導・進路指導の質を高めていっていただきたい。
Ⅱ	生活指導・健康指導・教育環境の充実	生徒支援部 環境保健部 事務部 各学年	具体的取組	・基本的生活習慣の確立 ・規範意識とマナーの向上 ・常在危機意識の徹底 ・人権教育の充実 ・いのちを大切にする教育の充実 ・部活動の活性化と充実 ・ボランティア活動の推進	3.28	3.29	○生徒支援部の取組は、生徒会と協働した校則見直しや紫雲祭での主体的な運営、防災訓練での関係機関連携などが成果として確認でき、学校生活の基盤づくりに貢献していると評価します。特に行事・安全面では、生徒の協働力やリーダーシップが伸びています。 ○SNS上のの不適切使用が見られ、規範意識の定着には継続的な指導が必要。また、授業規律や学習姿勢の面では、授業を通した生徒指導という方針の徹底を期待。部活動体制は方針改定の進展を評価しつつ、教員負担と生徒の活動機会の両立に向け、精選を計画的に進めて欲しい。 ○地域との連携を含め、実効性の高い防災体制が整備されている。
Ⅲ	広報活動・募集活動・信頼される学校作り	フロンティア科 渉外図書広報部 教務部 生徒支援部 進路支援部 各学年	具体的取組	・小、中、特別支援、大学、関係教育機関及び地域との連携 ・PTA活動の活性化 ・広報活動の充実 ・産学官と連携、交流 ・魅力ある特長作り ・校内研修の更なる充実	3.45	3.43	○中学校・小学校・地域・塾への情報発信をもっとして欲しい。 ○探究活動が深化したことは極めて大きな成果です 。外部連携を通じたプログラムも豊富で、生徒の意識向上に寄与しています 。今後は外部コンクールへの応募強化や、HP等を通じた積極的な対外PRにより、学科の魅力をさらに発信していくことを期待します 。 ○PTA活動が活性化された一方で、PTA総会等への参加者減少は課題であり、参加しやすい運営・広報の工夫を期待します。

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
教務部	(1)学習に対する意識の確立及び学力向上に向けた指導	①学習習慣・学習方法・基礎基本の未定着の解消への取り組み ②個別指導の充実 ③ICT機器を利用した生徒の学習の実態把握とフィードバック ④学習委員会の活性化を目指した指導	Ⅰ	◎長期休業明けに「面談・課題提出指導期間」を設定し、各学年で粘り強く提出指導をしていただいた結果、ほぼ提出が完了した。 ◎進路支援部のご協力のもと、Classiにて学習量の調査を実施することができた。 ▲学習量調査の結果、学習習慣未定着の実態が明らかになった、自宅学習時間少なさ、結果に結びつかない学習は学習方法の未定着も一つの原因であると推測される。来年度へ向けて、「学習の手引き」を作成し、年度始めの初期指導期間や常時指導で学習方法の定着や自宅学習時間の増加を図っていきたい。	3	3.0	○自宅学習時間少なさを解決するための解決策を討議したい（保護者のサポートについて）。 ○45分授業、50分授業の校時程を考え、授業時間の確保をしつつ工夫してもらいたい。例えば、生徒の学力に合わせた個別授業とか出来ないか。 ○中学校・小学校・地域・塾への情報発信をもっとして欲しい。先日中学校に講義に行き、日向市内の各高校の動画を提示したら、中学生が真剣に見ていたことがあったので。 ○先生方の負担も軽減も大事だと思います。Classiや生成AIの研修も実施し、DX化を推進を宜しくお願いします。 ○保護者への連絡や個別最適化の学習など他の機能を十分に活用できるよう校内研修と保護者にも理解をしてもらう説明会をお願いしたい。 ○台湾留学関係のセミナーを、今後を見越して、小中学校に出前講座を行って欲しいです。 ○ ICTを活用した採点業務やClassiを通じた学習量調査など、デジタル化による業務効率化と実態把握が進んだ点を高く評価します 。一方で、データ入力の誤りやシラバス周知の不足といった課題も散見されます 。今後は「日向スタイル」の確立に向けた内規の徹底と、生徒への丁寧な指導を期待します 。 ○教務部の取組は、課題提出指導期間の設定による提出状況の改善、学習量調査による課題の可視化、オープンスクール参加者増による広報面の成果、デジタル採点や資料デジタル化による業務効率化、計画的な校内研修の実施など、着実な前進が見られます。留学セミナー等により進路の選択肢を広げた点も評価したいと思います。 ○一方で、学習習慣・学習方法の未定着は重要課題であり、「学習の手引き」の活用と年度当初の指導強化で家庭学習の定着を図る必要があります。併せて、授業時間確保と特色あるカリキュラムの検討、シラバスの周知と運用の安定化、HP・SNSを含む情報発信の強化、成績処理の入力ミス削減、Classi活用の拡大と生成AIを含む研修の充実を期待します。 ○生成AIを積極的に活用することで業務改善をはかり、学習指導・進路指導の質を高めていっていただきたい。 ○家庭学習時間の不足や学習方法未定着という課題はあるものの、面談指導や課題提出指導、学習実態の把握など改善に向けた取り組みは適切に行われている。基礎学力定着に向けた初期指導の強化を期待する。 ○普通科とフロンティア科の特色化に向けた検討が進められており、今後の教育課程刷新に期待ができる。授業時間確保や校時程の最適化については引き続き検討が必要。 ○シラバスの早期公開は評価できるが、生徒・保護者への周知不足や制度変更による混乱が見られる。評価方法の定着と透明性の向上が望まれる。 ○オープンスクール参加者の増加は評価できる。一方で、ホームページ更新不足など広報面には改善の余地がある。 ○デジタル採点や公務支援システムの活用は有効であるが、入力ミスなど運用面の改善が必要。 ○計画的な研修実施に加え、生成AIなど、新しい教育技術への対応は高く評価できる。 ○Google Classroomの活用が定着しており、業務効率化にも寄与している。個別最適化学習への活用拡大を期待する。 ○国際的視野を育成する取り組みとして評価できるが、対象生徒の拡大や継続的な支援体制の構築が望まれる。 ○しっかり項目立てが為され、その項目ごとに現状把握、要因分析、対策検討をされておられます。令和8年度に、「学習の手引き」「特色あるカリキュラム」を拝見できることを楽しみにしております。 ○単元テスト導入は良いと思う。1年生が肯定的に受け止めている。学習効果が期待できる。2年生にも定着していくことを期待する。
	(2)魅力あるカリキュラムの検討	①定員減（教員数減）、日向高校の在り方・地域の期待を踏まえた検討 ② 普通科・フロンティア科のそれぞれの特色を生み出すカリキュラムの検討 ③学校行事の精選や校時程の見直しと授業時間の確保	Ⅰ	○学校設定科目（総合スポーツ、キャリア教養）の教科分類の変更を行った。 ○会議に伴う授業カットを、なるべく排除し授業時間の確保に務めた。情報科担当教諭が作成した、授業時数カウントシートを用いて曜日の年間バランスを考えて授業変更を考えることができた。 ▲４５分授業、５０分授業の校時程を考え、授業時間の確保を図りたい。 ▲R９年度に向けて、週３２時間のカリキュラムを検討し、普通科AC・SC、フロンティア科の特色が出せるよなカリキュラムを検討したい。	3	3.3	
	(3)指導と評価の一体化を意識したシラバスの作成・公表と教務内規の改訂	①シラバス早期確定とホームページ上での公表 ②新学習指導要領も続いた教務内規の改訂	Ⅰ	○シラバス作成を行ったため、例年より早くHP上で公開することができた。 ▲シラバスの内容を生徒・保護者に十分に周知できていないところもあった。 ▲教務内規を変更してスタートしたが、シラバスの訂正が間に合っていないところがあった。年度途中で定期考査についても変更をしたため、少し混乱を招いた。日向スタイルを確立させていきたい。	3	3.3	
	(4)学校の特色や魅力の効果的な発信	①中学校・小学校・地域・塾への情報発信 ②オープンスクールの充実	Ⅲ	◎夏のオープンスクールの参加者はR6：289名→R7：319名と増加した。参加した中学生・保護者の反応も良好であった。 ◎秋の学校公開でのオープンスクールの参加者はR6：30名→R7：36名、部活動体験会参加者はR6：49名→62名と増加した。 ▲情報発信について、HP更新は減少。更新回数を増やすと同時に他のメディア（インスタ等）での発信も活性化する必要があると考える。	3	3.1	
	(5)各種情報の共有化及び個人情報の取扱の遵守	①個人情報の取り扱い ②各種成績処理、調査書、指導要録等の円滑な処理・作成を図る。	Ⅱ	◎百問繚乱を活用する先生方が増加し、採点業務の負担軽減につながっている。採点に慣れているため、高校入試でのデジタル採点（百問繚乱）もスムーズに行うことができた。 ◎校務支援による成績処理は、教務の担当が余裕をもって計画的に行うことができた。しかし、データ入力の間違いが多く、担当者が修正する負担が多かったことは改善すべき点（▲）である。	3	3.3	
	(6)校内研修の計画と精選	○コンプライアンス研修・授業研修・特別支援教育研修など各種研修の計画	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	○校内研修の精選を行い計画的に実施することができている。 ○授業研修は指導教諭の主導で計画的に実施している。今年度は、７月の「教科総合訪問」を重ねることができてたため、先生方の負担も軽減することができた。 ▲生成AIを授業や校務に生かしている先生方がいる。Classiや生成AIの研修も実施し、DX化を推進していきたい。	4	3.7	
	(7)ICT教育推進	①Googleclassroom、Classiの活用方法の研究 ②ICT機器を活用した事務処理の省力化、クラウド処理のマニュアル化 ③会議資料等の紙ベースからデジタルベースへの転換	Ⅰ Ⅲ	◎Googleclassroomは授業や連絡など頻繁に使用されている。 ▲Classiの活用は不十分である。保護者への連絡や個別最適化の学習など他の機能を十分に活用できるよう校内研修が必要であると考える。 ○会議資料のデジタル化で、印刷業務の負担を軽減することができている。今後も推進していきたい。	4	3.7	
	(8)海外大学進学支援	①海外大学進学を目指したグローバルセミナーの開催 ②留学情報の紹介と留学手続きのマニュアル作成	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	◎台湾留学関係のセミナー（グローバルセミナー）をリモートで開催することができた。フロンティア科の１年生対象であったが、海外大学への進学に興味をもつ生徒が出てきた。 ○海外大学へ進学するための情報提供は出来ている。引き継ぎができるようマニュアル化する必要がある。	3	3.1	

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
生徒支援部	(1) 生徒の規範意識高揚と帰属意識の醸成	①生徒総会などを利用し生徒・保護者の意向を踏まえた校則の改訂を行う。 ②校内でのスマートフォンやタブレットの適切な扱いを徹底し、公共の場での規範意識やマナーの向上に努める。 ③紫雲祭などの行事を通じて、生徒１人１人が自己肯定感を感じられるものとし、帰属意識を高めていく。	Ⅱ	○昨年の身だしなみに関する校則の改定同様、今年度もヘルメット着用について等、生徒会と協議しながら改訂作業を行っている。 ▲1学期にスマホ使用やタブレットの不適切使用の指導が多かった。2学期はSNSを使った人権侵害行為等があり指導するなど、規範意識の低下（特に1年生）が顕著である。（スマホ使用１７件、スマホ電源3件、タブレット不適切使用４件）。 ◎紫雲祭体育の部においては、準備も含めて雨が多い中で、団長、リーダーを中心にリーダーシップが発揮された。また文化の部においては、今年度体育館が工事で使用できず、しかも台風の影響で急遽文化交流センターで1日のみの開催となったが、実行委員を中心に全員が臨機応変に対応し、帰属意識や協働力、人間力を高める行事として成功できた。	3	3.1	○紫雲祭体育の部においては、泥んこまみれで生徒全員で行ったグランド整備には感動しました。終わった後の生徒の一体感は忘れません。また文化の部は実行委員を中心に全員が臨機応変に対応でき素晴らしかったです。 ○管理職、教育相談、学年団と連携を取り、迅速に適切に対応が早くて素晴らしいです。寮生の実態把握・継続よろしくお願いします。 ○リーダーシップを発揮できる生徒たちが多くなったと思います。 ○部顧問体制の見直しを保護者と意見交換の実施をお願いしたい。 ○高台に位置していますので防災拠点になるので炊き出し実施練習などをして欲しい（日向市・消防・地域住民・近くの幼稚園小中学校を交えて）。
	(2) 職員の共通理解に基づいた常時指導と共感的関係づくり	①授業は最大の生徒指導となるよう、自己肯定感や有用感を高める授業づくり、個々の生徒への声かけや支援をしながら生徒同士を関わらせ、育てていく。 ②些細な生徒の変化を敏感に観察し、職員間で密に情報交換・共有をする。 ③寮訪問を定期的に行い全職員で寮生の生活を見守る体制を作る。	Ⅰ Ⅱ	▲進学を目指す普通科高校としてあるべき授業態度、学習に向かう姿勢を教師と生徒が作り上げていく努力工夫はなされているが、メリハリをつけた指導を牽引していかなければならない。授業がすべて、授業はまず姿勢から。授業を大切にし、始めと終わりの挨拶や、落ち着いて授業に臨む姿勢、クラスみんなで学習に向かう雰囲気を作り上げ、協働力を養えるようにもっと取り組む。 ○人間関係のトラブルを抱える生徒が増えてきているように思える。中学校時代のコロナによる制限も影響しているように思えるが、生徒には正しい人間関係の在り方や傾聴力などを伝えていく必要性を感じる。ただ紫教師が高いアンテナを張り、察知したサインについては管理職、教育相談、学年団と連携を取り、迅速に適切に対応することができた。 ○1学期は他校生徒の問題行動が報告されたが、4校PTA会長による寮訪問等で改善した部分もあり、2学期以降は落ち着いた。本校は月に一度の寮訪問によって、寮生の実態把握ができており、継続していくべきと考える。	3	3.0	○生徒支援部の取組は、生徒会と協働した校則見直しや紫雲祭での主体的な運営、防災訓練での関係機関連携などが成果として確認でき、学校生活の基盤づくりに貢献していると評価します。特に行事・安全面では、生徒の協働力やリーダーシップが伸びています。 ○一方で、スマホ・タブレットの不適切使用やSNS上の人権侵害事案が見られ、規範意識の定着（特に1年生）には継続的な指導が必要です。また、授業規律や学習姿勢の面では、全職員で指導の基準を揃え、「授業が最大の生徒指導」という方針をより徹底することを期待します。部活動体制は方針改定の進展を評価しつつ、教員負担と生徒の活動機会の両立に向け、精選を計画的に進めてください。 ○規範意識については学校だけでなく家庭での教育も重要であるため、保護者との連携をより緊密に行い、改善を図っていただきたい。
	(3) 自治意識の主体性の高揚	①生徒会を中心とした自治活動を見守り、活動が軌道に乗るように適宜助言をしながらサポートを行う。 ②行事やクラス活動を通して、生徒に自己決定の場を多く与え、それを見守りながら責任感や自己有用感、協調性を育てる。	Ⅱ Ⅲ	○生徒会のヘルメット着用推進にかかる取り組みや、生徒会選挙における候補者の主体的な活動は非常に充実したものであると考える。一方で各委員会活動を充実させる必要性を感じるが、生活委員や交通委員等少しずつ生徒主体の活動も見え始め、各種委員会を月1回開催するなど、生徒の持っている潜在能力をもっと発揮できる機会を作り、より活性化させていきたい。 ○紫雲祭文化の部の実行委員会や、生徒会選挙における選挙管理委員会（３年生委員長、副委員長）の取り組みは大変素晴らしく、生徒会以外でも主体的にリーダーシップを発揮できる生徒を、もっと活躍させられるような、自己肯定力を養う場面を多く作る必要がある。	4	3.7	○今後も生徒が主体となって実施する行事の計画をお願いしたい。 ○難しい部分もあると思うが、人手不足が深刻化しているため、部活動体制についての見直しは急務であると考える。 ○学校行事を通じた帰属意識・規範意識の向上は評価できる、SNS問題など情報機器の適切使用に関する対策が必要。 ○組織的対応体制は整っているが、人間関係トラブルの増加などへの対応が今後の課題。 ○生徒会活動や委員会活動の主体性が見られ、今後のさらなる活性化に期待できる。
	(4) 生徒数減に伴う部活動体制の見直しと活性化	①部活動ガイドラインに基づいた適切な休養日のあり方を研究し、より充実した活動となるようサポートを行う。 ②部顧問体制の見直しと部活動の精選。	Ⅱ	○日向高校の「部活動に係る活動方針」については改定のための手続き中であり、来年度4月からの施行ができる見通しである。 ▲生徒の多様な競技への支援、教師の負担軽減のジレンマの中で、なかなか見直しが進んでいない。様々な観点から慎重に検討し、部活動の精選をさらに進める必要がある。	3	3.1	○働き方改革との両立という難しい課題に取り組んでおり、慎重な見直しが必要。 ○地域との連携を含め、実効性の高い防災体制が整備されている。 ○規範意識の低下が心配ですね。スマホ使用やタブレットの不適切使用」は依存症の可能性もあり、とくにコロナ世代は社会接触を強制的に奪われたことからネットに向き合う時間が長時間化した可能性もあります。現象面の真の原因を理解することは難しいかと思いますが、「規範意識の低下としての指導対象なのか？」この問題は大学生も同様ですが、一緒に議論していければ幸いです。
	(5) 防災危機管理体制の見直しと充実	①地域の防災拠点としての役割が災害時に確実に果たせる体制づくりを進める。 ②生徒会安全委員会と連携をとり、生徒の防災意識の向上に繋がる活動を行う。 ③防災の観点からも、普段の無言整列・点呼を徹底していく。	Ⅱ Ⅲ	○避難訓練において日向市役所や日向市消防と連携がとれている。 ○避難訓練においては無言整列・点呼が出来ていた。また、教職員の確認もスムーズに出来た。災害に備え継続していく。	4	3.7	○部活動の在り方について、4月以降に正式立ち上げ予定の高校を超えた地域の「クラブチーム」を題材・素材に継続的に議論をお願いできますと幸いです。 ○スマホトラブルを5月に懸念して指摘したが、連絡のみに使うので問題ないとのことだった。年間反省によると人権侵害行為等もあったとある。

	重点目標	具体的取組	関連付	１・２学期コメント	自己評価	関係者評価	評価コメント
進路支援部	(1)進路実現につながる総合力の育成	①放課後講座（全学年）・夕講座（3年）の実施 ②実力養成テストの実施（1、2年） ③模試の実施（原則基準日で実施） ④公務員講座の実施 ⑤組織的な受験指導の実施	Ⅰ	○今年度の放課後講座は、3年生は年間を通しての計画、1、2年生は講座制の実施。それぞれの学年において、今後の検討が必要である。 ▲実力考査は８月に実施。回数や実施時期、内容の検討が必要。→単元テストとの関連 ○公欠に伴う、追試のあり方については、公開追試を1回と設定。（全学年共通） ○３年生で実施。受益者負担の考え方よりあり方の検討が今後は必要。 ◎面接指導、小論文指導を組織的に実施。→　ご協力ありがとうございます。	3	3.1	○夕講座等は、今後も実施して頂き、さらに放課後講座を1、2年生にもしてもらいたい。 ○講座・講演会を持続をお願いしたいです。保護者同伴講座とかあると保護者の意識も変わるのではないか。 ○入試分析や研修は行われているが、指導力向上の継続的取り組みが求められる。 ○面接・小論文指導の組織的な実施や、進路講演会の充実により、生徒の進路実現に向けた環境が整備されています。一方で、一部の生徒の主体性の低さが課題として挙げられています。今後も担任と連携し、生徒一人ひとりが「自分ごと」として進路を捉えられるよう、指導の深耕を期待します。
	(2)自立した社会人・職業人の育成を目指したキャリア教育の実施	①進路講演会の実施（全学年） ②職業夢講座の実施（1年） ③各種講座・講演会の実施（全学年） ④アドバンスセミナーの実施（1、2年） ⑤進路希望調査の実施（全学年） ⑥小論文模試の実施（2、3年） ・２年：３学期に志望理由書 ・３年：１学期上旬に志望理由書、１学期下旬に小論文　⑦卒業生と語る会の実施（１、２年） ⑧日向市や企業・大学等と連携したキャリア教育	Ⅰ	◎中央公民館での実施。生徒の積極的な質問もあり充実していた。 ○10月に日向市役所との連携により実施。 ○３年生の進学講演会（ベネッセ劉さん）を実施した。→２年生の保護者含めての進路説明会(2/25) ○アドバンスセミナーを７月に1、２年対象に実施。外部業者との連携も課題。 ○今年度は2、3年生は4月、1年生は6月実施。年度当初に進路希望調査を行うことにより、進路指導の目安となった。2学期の実施についても1学期の比較等で担任の面談等に使用できたのでは。 ○小論文模試は３年生希望者に実施。受験指導と関連付けて低学年からの実施が課題。 ○卒業生と語る会を３月に向けて企画をしていく。 △職業夢講座での連携等を行っている。	3	3.3	○進路支援部の取組は、放課後・夕講座の計画的実施、面接・小論文指導の組織的展開、進路講演会やアドバンスセミナー等を通じたキャリア教育の充実、日向市役所等との連携、年度当初の進路希望調査の活用など、進路意識の形成と進路実現に向けた基盤づくりが着実に進んでいる点を評価します。 ○一方で、実力考査の回数・時期・内容（単元テストとの整理）や、講座運営の学年別の在り方・受益者負担の考え方については継続的な見直しが必要です。また、小論文指導は低学年からの計画的な積み上げ、外部業者・地域との連携の整理、新しい大学入試に対応した校内研修と入試データ分析の一層の充実を期待します。 ○学力向上の指導だけでなく、大学合格はあくまでも通過点であるという視点を生徒に養ってもらう指導も期待したい。 ○組織的な受験指導は評価できるが、低学年からの体系的指導の強化が望まれる。 ○外部連携や講演会等は充実しているが、体験的学習のさらなる進化が必要。学ぶこと・働くことの本質的な喜びを喚起して、主体的な学びにつながるような指導となると良い。
	(3)新しい大学入試に対応した指導力向上の研究	①進路・学力検討会の実施（全学年） ②職員研修の充実 ③外部の教員研修セミナーの活用 ④入試データ等の収集・整理・分析	Ⅲ	○３年生は７月に実施、11月に実施予定。1、2年生は９月、12月に実施。 ○５月に全職員共通理解のために入試分析を実施した。スタディーサポートの分析会も実施できるとよい。ClassiやFINEの研修会も実施したい。 ▲教員の指導力向上のため、予備校等の講座に参加を促していきたい。 △過去の入試問題等を収集している。	3	3.1	○入試分析や研修は行われているが、指導力向上の継続的取り組みが求められる。 ○大学進学希望者に対するご支援に関して、大学サイドはどのような考え方と対応をしたら良いのか。この点もぜひ継続的にご議論できますと幸いです。

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
渉外図書広報部	(1)校内外との連携 ①PTA総会を初めとするPTA行事の円滑な実施 ②親和会の運営・親和会費の適正な運用 ③同窓会との連携	①PTA総会の綿密な準備をする。理事会や各委員会の活動を活発にする。 ②親和会の行事について計画をする。親和会の会則の見直しを検討する。親和会費の適正な運用をする。 ③同窓会との連携を継続して維持する。同窓会会員の把握のための情報提供に協力する。	Ⅲ	①理事会・紫雲台セミナー・PTA新聞については実施することができた。今年度は紫雲祭の食品バザーに加えて３学年合同のPTA・職員懇親会、校内除草作業ボランティアなどを実施することができた。PTAが意欲的に新たな取り組みを創出して実現できた。また、県北地区会の理事校として研修会・懇親会を実施して交流を深めることができた。一方でPTA総会を初め学校へ足を運ぶ保護者が少なくなってきている。保護者と職員の協力する態勢を強化していく手段を考えていく必要がある。 ②親和会費の適正な運用は事務室が把握していてできている。紫雲祭の反省会や忘年会、その他で冠婚葬祭で使用した。 ③同窓会会員の把握のための情報提供に協力した。	4	3.9	○PTAとの繋がりはできているとは思いますが、保護者と先生が対話が出来る場所・企画ができないか。 ○もっと情報発信して欲しいです。 ○PTA行事の充実やオープンスクール参加者の増加など、地域や保護者との連携強化が成果として表れています 。電子図書館の活用やビブリオバトルを通じた読書推進も高く評価します 。今後はSNS活用を含めた、よりタイムリーで魅力的な情報発信の強化を期待しています 。 ○渉外図書広報部は、PTA行事を円滑に運営するとともに、バザーや懇親会、除草ボランティアなど新たな取組を実現できた点を高く評価します。一方、PTA総会等への参加者減少は課題であり、参加しやすい運営・広報の工夫を期待します。
	(2)図書視聴覚管理運営 ①読書・調査活動拠点としての図書館の整備 ②生徒図書委員の活性化 ③生徒の読書活動の推進	①外部の日向市や県の読書施設との連結をして、調査・検索活動を支援のできる図書室にする。 ②生徒図書委員の活性化により、図書の選定や読書活動の推進をする。 ③生徒の読書活動推進のためにＬＨＲでビブリオバトルやひむかいの時間で新書の活用などを実施する。	Ⅰ	①県立図書館「ひなた電子図書館サービス」の職員・生徒の利用開始、日向市図書館の「第３回ラボ・ラボ」に図書委員６名参加、貸し出し用ＩＣＴ端末を図書館でバーコード管理し、生徒・職員が利用できるようにした。今年度の図書館の平均貸出数3.5冊（昨年度　2.9冊）。次年度は外部との連携をさらに強化したい。 ②図書委員会によるカウンター当番、県北地区の研修会の２名参加、紫雲祭ではＰＯＰを作成して展示。県高校ビブリオバトル大会に１名参加。次年度は、図書委員会による展示コーナーの設置などを拡大したい。 ③１学年ＬＨＲでビブリオバトル大会を図書委員が企画・運営して実施、「ひむかいの時間」で活用できるように「新書」コーナーを拡大した。次年度は読書ＬＨＲを2年生でも実施したい。	3	3.2	○図書分野では、県立・市立図書館や電子図書館の活用、図書委員の取組（展示・POP・ビブリオバトル等）により貸出増につながっており成果が見られます。広報はHP更新の継続を評価しつつ、マニュアル整備やSNSも含めた発信強化に取り組んでいただきたい。 ○読書は生涯を通して役立つ習慣であるため、電子図書館サービスと合わせ更に平均貸出数を増やす取り組みをお願いしたい。 ○PTA活動は活発であり、学校支援体制として高く評価できる。 ○読書活動推進の取り組みはみられるが、さらなる活用の余地がある。 ○SNS活用は評価できるが、公式媒体での発信力強化が必要。 ○PTA様の積極的な活動や貢献、とても素晴らしと思いました。学校や生徒の問題を先生方だけにお願いするのではなく、PTA、より広く地域社会全体で考え、行動する機会や場が必要だと思います。例えば、しばらく小学校、中学校、高校でコロナを経験した世代が進学し、社会に出ます。「社会性がない、コミュニケーションができない等」と外形面からのみ即断せず、地域全体でコロナ世代の最後が社会に巣立つまで一人一人に向き合う必要があると考えています。 ○読書量の増加は素晴らしいことだと思います。図書室に生徒さんが選書されたコーナーが常設されている点もとても素晴らしいと思います。また。すでに対応済みかもしれませが、図書館に大学入試に使用された文献の特集コーナーを設置するのはどうでしょうか。 ○PTAとの連携は重要だが、保護者も教職員も多忙と思われる。県教委と協議して早期に打開策を探って欲しい。
	(3)学校広報活動の充実 ①ホームページ・学校パンフレット等を用いた学校の魅力発信 ②オープンスクールへの協力 ③日向高校に関するメディア情報収集・整理	①ホームページ・SNSなど先生方や生徒会との連携により、日々の活動状況を発信する。学校パンフレットの内容を工夫して、日向高校の特徴を発信し、生徒増加を維持する。 ②教務と協力しながらオープンスクールや、中学校・塾訪問の準備を整える。 ③日向高校関連のメディア情報を収集・整理して、職員・生徒に知らせる方法を確立し、外部への情報発信に応用する。	Ⅲ	①ホームページは比較的、校内行事について更新できている。ホームページの更新についてはマニュアルを作成中である。複数の方で確認・入力できるシステムに移行し、更新の頻度を高めたい。 ②オープンスクールについて主体的な部分ではないが、配布物の準備・運搬、動画修正などで協力できた。 ③特に新聞の記事を集める活動をしている。一部の会に情報として使用することができた。	3	3.2	

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
環境保健相談部	(1)環境部門 ① 学習環境の整備 ② 清掃・ごみ分別の徹底	・清掃場所分担の適正化、清掃活動の徹底 ・生徒会との連携による美化活動，学習環境整備 ・花壇の整備 ・ゴミ分別の実施 ・ゴミの回収担当者決め	Ⅱ	○日常的には使わない場所を洗い出し，適正な人員配置を進める。 ▲トイレ等の清掃の徹底不足 ○事務部，および清掃担当の協力のお陰で花壇整備ができた。 ▲ゴミ分別状況が悪くなってきている。(売店前のゴミ分別) ○清掃の担当場所ではゴミの分別を徹底できていた。教室のゴミ箱の回収担当を決めこまめに回収を実施中　　◎下足棟の傘の整理を行った。	3	3.1	○情報共有はスムーズで早いと感じました。 ○清掃活動や検診の円滑な運営など、学習環境の整備と健康管理において着実な成果を上げています 。相談室登校の生徒への丁寧な支援は高く評価できる一方、学級復帰へのサポートが今後の課題です 。引き続きSC・SSWと連携し、生徒の心身の安定に向けた多角的な支援を期待します 。 ○環境保健相談部は、行事での熱中症・感染症対策の見直しや検診の円滑な実施、教育相談からSC・SSW等への迅速な接続、学校生活アンケート後の面談と情報共有の円滑さなど、学校の安全・安心を支える取組が着実に進んでいる点を評価します。特に教育相談部門は連携が機能しており高く評価できます。 ○一方で、トイレ清掃の徹底や売店前を中心としたごみ分別の改善は引き続き課題です。また、相談室登校の増加を踏まえ、本人の状況に応じた段階的な教室復帰支援と、学級・家庭・関係機関の連携強化を一層進めてください。 ○清掃は学校の風紀に直結するため、徹底をお願いしたい。 ○概ね適切に管理されているが、清掃や分別など基本的事項の徹底が必要。 ○行事の安全管理は適切であり、感染症対策も評価できる。 ○外部専門家との連携が機能しており、安心安全な学校づくりに寄与している。 ○相談室登校の生徒さんの増加が心配ですね。大学でも同種の問題が生じていると思っております。この問題は、個人的な要因とそれ以外でも対応策が変わってくるかと思います。宮崎県の県立高校全体で情報共有・分析する仕組みはあるのでしょうか？蛇足かもしれませんが、今後県立高校の優位性・差別化を考えるためにも、県立高校にには多くの生徒の問題にと組んできた実績と対応ノウハウが蓄積されている！というアピールもできるような気がしています。そのためには高校の枠を超えた情報収集・分析が必要となりますが。
	(2) 保健部門 ① 適切な健康管理の実施と健康の保持増進活動の推進 ② 保健・体育行事の安全な運営	・学校医や関係機関と連携を図り、各種検診の日程調整と事後処置を徹底させる。 ・学校医や関係職員と連携を図り、感染症や事故災害への適切な対応や危機回避を行う。 ・生徒保健委員会の活動を充実させる。 ・日常の健康観察の徹底。 ・行事前の健康調査と健康相談の実施。 ・緊急時に対応できるような救命救急講習会の実施。 （職員は年１回全員参加。生徒は１， ２年次に保健体育の授業で実施） ・安全点検の充実。 ・学校保健委員会・安全衛生委員会の年２回実施	Ⅱ	○学校行事における熱中症対策、感染症対策を見直し、救急搬送や感染症拡大を防止することができた。 ◎行事前健康調査及び面談を実施した。本人・保護者と参加形態を検討し、安全に実施できるように体制を整えた。 ◎教育相談を迅速に行い状況に応じてSC・SSWに繋げることができた。 ○検診等はスムーズに実施できた。（検診での待機方法を今後工夫したい） ○学校保健委員会・安全衛生委員会を実施予定。年２回実施できるように準備する。　　来年度は感染症の予防対策を重点的に実施し感染症の未然防止に繋げたい。	3	3.1	
	(3) 教育相談部門 ① 相談しやすい環境づくり ② 特別支援教育の充実 ③ 面談の充実と職員・保護者の支援	・学校生活アンケートの実施と実施後の速やかな個人面談 ・教育相談室の整備 ・スクールカウンセラーなど外部専門家と専門機関の活用 ・支援を必要とする生徒把握 ・各部，学年，教科への情報発信強化（連携強化） それぞれの立場で特別支援を行っていただく	Ⅱ	◎学校生活アンケートは先生方のご協力のおかげで速やかな実施ができた。 ○スクールカウンセラーの利用ができるように今後も繋げていきたい。 ◎各部、学年、教科の先生方には本当にご協力をいただいて情報共有はスムーズにできた。支援の必要な生徒への対応についての連携・協力も円滑であった。 ○職員研修でSCについて話をいただき、生徒対応への参考になった。 ▲相談室登校の生徒が多くなってきている。生徒の気持ちを確認しながら教室登校ができるようにしていきたい。　　来年度は相談室利用から学級への復帰ができるだけ多くの人数になるように教育相談の充実に努めたい。	4	3.3	

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
事務部	(1)予算の計画的かつ効率的な執行と管理	①予算科目と令達所属毎に予算管理表を作成し管理する。	Ⅱ	・予算科目と令達所属毎に予算管理表を作成し、適切な予算管理を行った。 ・不足する予算については、各担当が調査報告を行い、県教委員会各課に予算要求した。	3	3.3	○これからさらに物価上昇で両親の負担も大きくなるのでそこが気になります。 ○職員に希望調査より、生徒の安全面を考慮して補修場所を再検討下さい。 ○予算管理表の作成による適切な執行や、奨学金申請支援など、事務面での計画的な運用は高く評価できます 。施設設備の修繕にもミライムを活用し、円滑な日程調整が行われています 。今後も緊急度と必要性を考慮した公平な備品購入と、透明性の高い予算管理の継続を期待します 。 ○事務部は、予算科目・所属ごとの管理表に基づき適切な執行管理を行い、不足見込みには調査報告の上で速やかに予算要求するなど、計画性が確保されています。収入金についても、督促・説明に加え、困窮世帯への給付金案内等の配慮がなされている点を評価します。 ○施設設備は、希望調査を踏まえ優先順位を付けて修繕を実施し、ミライムでの事前周知や購入後の台帳整備まで丁寧に対応できています。今後は、未納の抑止に向けた早期アプローチの仕組み化と、修繕・更新の中長期計画の見える化を進め、より安定した学校運営につなげてください。 ○今後も円滑な学校運営のために正確な事務をお願いしたい。 ○適切に執行されている。 ○必要個所の修繕が計画的に実施されている。 ○必要個所の修繕が計画的に実施されている。 ○しっかり必要な事務対応をなされていると思います。
	(2)収入金の確保	①未納者については、毎月、督促状の送付を通じて未納金の回収に努める。また、非課税世帯や生活困窮世帯には、奨学給付金や各種奨学金の申請を勧めるなど早期の措置を講じる。	Ⅱ	・未納者については、毎月、督促状での督促を行っている。非課税世帯等は奨学給付金申請の案内をした。 ・それでも納入しない保護者には、電話や呼び出して説明を行って、更なる督促を行った。	3	3.1	
	(3)施設設備の整備・充実	①優先度の高いものから着実に修繕・工事の対応をしていく。 ・学校行事や授業等に影響が出ないように日程調整を行う。 ・ミライムを活用して日程や注意事項等の情報を事前に共有しておく。 ②消耗品については、口頭だけでなく紙やデータで一覧をもらい、都度必要性等を確認する。 備品購入については校内の要望のとりまとめをし、緊急性、必要性及び予算を考慮した優先順位に基づき適正な購入を行う。購入後は管理簿、台帳配置図等の作成を速やかに行い管理体制を整える。	Ⅱ	・修繕等については、職員に希望調査を行い、優先度の高いものから予算の範囲内で対応した。 ・今年度は、管理棟１階の分電盤、グラウンド用照明の配線、体育教官室内線電、生徒棟１階天井の補修を実施した。なお、実施する際は、ミライムで日程や注意事項をお知らせして施行した。 ・備品については、職員の要望に対し、緊急性や必要性、予算を考慮し、優先順位に基づき適正に購入した。 ・購入後は、管理簿、台帳配置図等の作成を速やかに行った。	3	3.3	

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
1学年	(1)基本的生活習慣の確立	①登校習慣・生活リズムの確立と定着 ②規範意識の醸成，奉仕活動の充実，自己管理能力の育成 ③学校行事・部活動等を通した自己肯定感の醸成 ④不登校生徒や配慮の必要な生徒への対応	Ⅱ	◎行事を通じた自己肯定感の醸成： 合唱コンクール等、集団での達成経験が連帯感と自信に繋がった。 ◎自発的な活動の活性化： 高い出席率を維持。ボランティアへの参加や、委員長を中心としたクラス改善の動きが自発的に見られた。 〇登校習慣の定着： 教員の配置・指導により、8時25分前の着席が多くの生徒で習慣化された。 〇個別支援の充実： 教育相談や保健室との連携により、生徒個々の状況に応じた柔軟な対応が実施できた。 △時間管理と生活リズム： 一部生徒の駆け込み登校・入室に対し、自己管理能力の育成を継続する。 △規範意識の向上： 情報機器や所持品管理のトラブルを受け、モラルと責任感の指導を強化する。 △日常的な支援と体制強化： 行事以外での肯定感向上施策の検討、および関係機関との連携体制の再検証を行う。	3	3.1	〇幅広い学力層への対応を期待します。 〇団行事を通じた連帯感の醸成や、Classiを活用した個別指導が実践されています 。一方で、規範意識の向上や、学習習慣の自律的な運用の強化が今後の課題です 。PDCAサイクルの定着を図り、生徒が模試や考査を自律的に捉えられるよう、引き続き指導を期待します 。 〇1学年は、行事を通じた自己肯定感の向上や高い出席率の維持、8時25分前着席の定着など、生活面の基盤づくりが進んでいます。学習面でもPDCA指導やClassiによる個別フォロー、習得度別講座・質問コーナー等の取組は有効で、学力向上に向けた体制が整ってきました。 〇今後は、駆け込み登校や情報機器・所持品管理、学習の科目偏りといった課題に対し、自己管理と学習の“日常化”を一層徹底し、進路情報を自分事として活用できる指導の深化を期待します。 〇学習は積み重ねであるから、1年次の重要性を生徒に理解してもらい、学習時間の更なる増加を図るようにされたい。 〇高校生活への適応や良好。主体的な学習への定着が今後の鍵。 〇キャロル・ドェックの「マインド・せっとやればできるの研究」によると、頭の良さ（テストの結果）を褒めるよりも、プロセスを褒めた方が生徒は伸びるそうです。家庭学習時間確保・維持のご指導はこの観点からも素晴らしいと思います。ぜひ、どんどん過程やプロセス、努力の量を褒めてあげてください。 〇学習以前に生活習慣が心配。協議会でコミュニケーション能力を育むよう積極的に声かけをしてほしい。
	(2)学習習慣の確立	①自宅学習の定着 ②課題（日々課題・週末課題など）の取組指導の徹底 ③各種考査・模試の重要性を意識させた指導	Ⅰ Ⅲ	◎PDCAサイクルの意識付け： 11月模試に向けた「目標設定→実践→振り返り」の指導により、模試の重要性と学習サイクルの認識が向上した。 ◎ICTを活用した個別フォロー： Classiのコメント機能を活用し、学習時間の少ない生徒に対してタイムリーな個別指導を実践できた。 〇学習時間の確保： 学年平均で1日1時間30分程度の家庭学習時間を維持できている。 〇指導体制の検討： 教科担任間での連携により、平日2時間・休日3時間の学習時間を確保するための課題課出体制の構築に着手した。 △学習バランスの適正化： 1日1科目に偏る生徒が多いため、複数科目を計画的に進めるための具体的な手立てを講じる。 △主体的な学習習慣の定着： PDCAサイクルを模試だけでなく、定期考査や日常学習においても全生徒が自律的に運用できるよう指導を強化する。	3	3.1	
	(3)教科指導の充実と学力向上	①授業での内容定着と指導力向上 ②幅広い学力層への対応 ③主体的な学習姿勢の醸成	Ⅰ	◎習得度別指導の展開： 放課後講座にて基礎・発展のコース制を導入。生徒が自身の学力に適した受講を選択できる環境を整えた。 ◎高邁な目標への支援： 難関大学合格を目指す学習グループを創設し、意欲の高い生徒への重点的なサポートを開始した。 ◎学習環境の整備： 期末考査前に質問コーナーを設置。教科担任への質問がしやすい物理的な仕組み作りを実践した。 〇授業時間の確保： 授業入れ替え等による自習時間をゼロに継続・維持できた。 〇学習の見通し改善： 単元テストまでのスケジュールを明示することで、生徒の計画的な学習を促すことができた。 △支援の継続と質の向上：学習グループの活動内容を検証し、より効果的な指導体制へとブラッシュアップする。	4	3.7	
	(4)進路意識の高揚	①自己理解に基づいた進路目標の設定 ②進路情報の提供 ③活動実績の振り返りと実績簿の整理 ④朝読書の充実	Ⅰ	◎多角的な進路情報の提供：「ひむかい」を活用した学部・学科調べや、Classroomでの迅速な情報共有体制を確立した。 ◎読書への動機付け： ビブリオバトルの開催により、生徒が本に親しみ、自発的に読書に取り組むきっかけを創出した。 〇個別支援の強化： 担任による繰り返しの二者面談や個別の声かけにより、自己理解の深化と校外講演会への参加を効果的に促すことができた。 △情報の活用と定着： 提供された膨大な進路情報を、生徒がいかに自分事として捉え、具体的な進路実現に結びつけられるかの指導を深める。	3	3.3	

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
2学年	(1)基本的生活習慣の確	①登校習慣・生活リズムの確立と定着 ②規範意識の醸成と自己管理能力の育成 ③学校行事・部活動等を通した自己肯定感の醸成 ④不登校生徒や配慮の必要な生徒への対応	Ⅱ Ⅲ	◎体育大会ではそれぞれが役割を頑張っていた。合唱コンクールではどのクラスも合唱委員を中心に一丸となって取り組み、連帯感が生まれ自己肯定感の醸成につながった。２学期に入り部活動の中心となり、勉強との両立が課題である。 ○１学期は携帯等で指導を受ける生徒も見受けられたが、後半はほとんどいなかった。継続的に指導していく。 ○教育相談と連携を取りながら、丁寧な対応を心掛けて対応できた。SC・SWにもかなりお世話になった。 ▲ギリギリに登校してくる生徒が多く、なかなか25分から落ち着いて読書をする雰囲気にならなかった。	3	3.1	○ギリギリに登校してくる生徒の対応を。社会に出で苦労するので。 ○合唱コンクール等を通じ、生徒の主体性と自己肯定感が高まった点は素晴らしい成果です 。登校習慣の確立については一定の改善が見られますが、読書習慣など、より落ち着いた学年文化の形成が望まれます 。今後も教育相談との連携を継続し、丁寧な指導を期待します。 ○2学年は、体育大会・合唱コンクールで役割を果たしクラスの一体感を高めるなど、行事を通じた自己肯定感の醸成が進んでいる点を評価します。生活面では携帯等の指導件数が減少し、教育相談・SC/SSWと連携した丁寧な支援も機能していますが、遅刻ぎみの登校が多く朝読書の定着に課題が残ります。 ○学習面は、Classiでの学習状況把握と個別声かけ、学年スローガンによる受験意識づけ、放課後講座の工夫により一定の成果が見られます。今後は、部活動と学習の両立を見据えた課題指導の「徹底」と、Classi・ポートフォリオを活用した活動実績の蓄積を強化し、進路目標の具体化につなげてください。 ○社会人でも時間ギリギリに来ると良い仕事ができないことがほとんどであるため、今後のことも見据え指導をお願いしたい。 ○試験学年への移行期として意識向上が見られるが、継続的指導が必要。 ○キャロル・ドェックの「マインド・せっとやればできるの研究」によると、頭の良さ（テストの結果）を褒めるよりも、プロセスを褒めた方が生徒は伸びるそうです。家庭学習時間確保・維持のご指導はこの観点からも素晴らしいと思います。ぜひ、どんどん過程やプロセス、努力の量を褒めてあげてください！ ○体育祭を自主的に運営できたようで良い。 ○学習習慣は早期の段階でつけるべき。中学校との連携が急務。 ○大学の下調べを促す仕掛け作りが必要。
	(2) 学習習慣の確立と学力向上	①自宅学習の定着と主体的な学習姿勢の醸成 ②課題（日々・週末・長期休業課題）の取り組み指導の徹底 ③放課後講座の時間の効果的運用	Ⅰ	◎classiによる学習状況の確認、担任・教科担任による個別の声かけ等を通して、自宅学習の習慣づけを継続してきた。学年のスローガンとして２学期は「２学期から受験生になろう！」、３学期は「受験生ＮＯＷ！」を掲げて、何かにつけて生徒に意識させた。教育課程説明会とも相まって、生徒が受験や進路を意識して勉強するようになった。 ○日々の業務に追われ課題の取り組みは「徹底」とまではいかないが、根気強く継続して指導した。 ○７月に２タームおこなった。受講している生徒は一生懸命取り組んでいた。２学期はＡＢＣの３パターンのローテーションで行った。３学期は進路を意識した自主学習に取り組み、個別の苦手の克服や得意科目の伸長に役立った。	3	3.1	
	(3) 進路意識の高揚	①自己理解に基づいた進路目標の設定 ②進路情報の提供 ③活動実績の振り返りと実績簿の整理	Ⅰ	○大学や進路調べをする時間をなんとか確保できた。（放課後講座・LHR） ○リクルートに講話とオープンキャンパスの事前指導（LHR）の時間を確保して、夏休みに全員がオープンキャンパス等の進路の催しに参加するよう促した。多くの生徒がオープンキャンパスに参加し、進路に対する意欲・知識を高めた。また、２月に「進路説明会」を実施し、保護者にはやめに受験の情報を提供し、進路に対する意識を親子で共有することができた。 ▲classi、ポートフォリオファイルを活用し、活動実績の記録や蓄積を行ったが、不十分であった。	3	3.2	

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
3学年	(1)進路支援の充実	①生徒一人一人の進路実現 ②自学力の育成 ③資格・講演会・進路に関する情報の提供・奨励 ④学校推薦型選抜・総合型選抜受験者への計画的な対応	Ⅰ	○学年の実態を踏まえ、放課後・夕講座開設、面接指導の時期設定など行ってきました。進路検討会・進路判定会も、全職員の協力で充実したものになりました。全員の進路実現を、最後までサポートしていきます。 ○学習会等の企画も行いました。classiによる学習記録、放課後や休日の学習の様子を見ていると「自分で学ぶ」生徒が増えていました。国公立大学入試前は、自分たちから学習する雰囲気を形成していました。 ◎英検は、準１級合格、ＣＢＴを利用し粘って合格、という生徒もいました。 ▲classroomや日課連絡票を通して情報提供していますが、自分のこととして捉えられない生徒もいました。 ◎２学期は、面接・小論文・討論指導を、組織的に全先生方にしていただきました。 ▲３年間を通して「計画的に」総合型・学校推薦型選抜受験を進められなかった点もあり、反省しています。 ◎予約奨学金申請、共通テスト申し込み等の、学校を通さない手続きが増加しています。共通テスト出願については、今年度は、かなり学校からの働きかけ（受験科目の指導、出願状況の確認）を行いました。	3	3.1	○全員の進路実現を、最後までサポート期待します。また、放課後・夕講座開設、面接指導を1年生からできないか？ ○最上級生としての自覚ある態度の育成や、組織的な面接指導により進路実現がサポートされています 。行事運営でもリーダーシップを発揮し、高い成果を上げました 。配慮が必要な生徒への細やかな連携体制は維持されており、卒業まで引き続き手厚い支援を期待します 。 ○3学年は、実態に応じた放課後・夕講座の開設や学習会の企画、進路検討会等の充実、面接・小論文・討論指導の組織的実施により、進路実現に向けた支援体制が機能している点を評価します。国公立大入試前に「自分で学ぶ」雰囲気が形成され、資格取得（英検等）にも成果が見られました。 ○一方で、進路情報を自分事として捉えにくい生徒への働きかけや、総合型・学校推薦型選抜を計画的に進めるための早期・継続的な指導は課題です。また、学校を通さない手続きが増える中、出願・奨学金等の確認支援を継続し、取りこぼし防止を徹底してください。生活・生徒支援面では、配慮が必要な生徒の増加に対し、管理職・教育相談・外部機関との連携が有効に機能しており、行事・部活動でのリーダー性の発揮も含め高く評価します。 ○体育祭・文化祭での臨機応変な対応は今後に必ず役立つと考える。 ○受験を取り巻く環境も変化してきているため、総合型・学校推薦型選抜受験への対策が求められる。
	(2)生徒支援の充実	①入試や社会生活を意識した最上級生らしい生活態度の育成 ②不登校生徒・配慮の必要な生徒への対応 ③部活動・学校行事でのリーダー性の育成	Ⅱ	○１年次に比べ、成長している姿を見ることが多くなったものの、気を抜くと、崩れていきそうになる雰囲気もあります。卒業するまで、常時指導を徹底しています。 ◎配慮が必要な生徒が、日が経つにつれ、多くなってきました。管理職の先生方、教育相談の先生方、外部の方々のサポートや連携があって、１人１人対応できている状況で、本当にありがたいです。 ◎紫雲祭体育の部は、例年と大きな日程変更にも関わらず、盛大な盛り上がりを見せました。紫雲祭文化の部が１日開催になりましたが、３年生の個人発表等への配慮をしていただき、学校行事に最後まで全力投球することができました。部活動実績も高く、こうした場で活躍する生徒も多い学年でした。	4	3.6	○最終学年として主体的な学習姿勢が形成されつつあるが、早期からの計画的指導が重要 ○キャロル・ドェックの「マインド・せっとやればできるの研究」によると、頭の良さ（テストの結果）を褒めるよりも、プロセスを褒めた方が生徒は伸びるそうです。家庭学習時間確保・維持のご指導はこの観点からも素晴らしいと思います。ぜひ、どんどん過程やプロセス、努力の量を褒めてあげてください！ ○生徒1人1人に向き合っていただき本当にありがたい。 ○生徒もぎりぎりの状況で頑張っていると思う。教職員も生徒も多忙そうだが、何とか持ちこたえているように思う。

	重点目標	具体的取組	関連付	年間反省	自己評価	関係者評価	評価コメント
フロンティア科	(１)探究活動の充実	①課題型学習の深化 ②外部機関との連携 ③コンクール等への応募	Ⅰ	◎学校設定教科「ひむかい学」を今年度から開講することにより、１、2年次での探究活動がより深みを増すことができた。1年生では統計の発展的な内容を扱い、データを使って自分の研究を説明する場を設けた。 〇日向市、宮崎大学、実践女子大学、トモノカイと連携し、探究活動を実施した。 ▲3年生はMSECでの発表を全班行うことができた。その他の外部コンクールへの応募については改善したい。	3	3.4	〇日向市、宮崎大学、実践女子大学、トモノカイと連携持続して下さい。 〇サマーキャンプについては目的を再度検討お願いします。 〇可能であれば、早い時期から大学訪問検討して下さい。 〇発表会を見せてもらいましたが、探究発表会の内容に工夫が必要と感じました。 〇「ひむかい学」の開講により探究活動が深化したことは極めて大きな成果です 。外部連携を通じたプログラムも豊富で、生徒の意識向上に寄与しています 。今後は外部コンクールへの応募強化や、HP等を通じた積極的な対外PRにより、学科の魅力をさらに発信していくことを期待します 。 〇フロンティア科は、学校設定教科「ひむかい学」の開講により探究活動が体系化され、データを用いた説明機会の設定など内容の深化が進んだ点を評価します。日向市・大学等との連携や、MSECで全班発表を実現したこと、難関大志望者への模試分析・大学訪問、NPJ/TISP/台湾研修などのプログラム実施も、生徒の視野拡大と高い目標形成につながっています。 〇一方で、外部コンクール応募の拡大、サマーキャンプの目的・内容の再整理、専門教科（数学・英語）の特色を生かした「フロンティア科ならでは」の学力向上策の一層の充実が課題です。広報面は通信発行や説明会等の取組を継続しつつ、最終発表会の開催時期・方法の工夫（中学生が参加しやすい設定）と、HP等での発信強化により魅力がより伝わる体制づくりを期待します。 〇難関大への合格者数が学校の魅力の全てではないが重要な要素を占めているため、上位者指導により磨きをかけていただきたい。 〇フロンティア科の独自価値の明確化が必要。 〇地域資源創成学部も創設10年を迎え、「地域資源創成学とは何か？」「地域資源創成学部らしさとは何か？」を問われております。よろしければぜひ「フロンティア科ならではの取り組み」について議論・検討をご一緒できれば幸いです。AI時代にどのような知識やスキルを修得し、「高校時代にどのような経験を積んでおくことが大切なのか？」このようなことを議論させていただきたい。 〇探究学習の成果発表会を見学。それぞれ地域課題を深掘りしていたが、本当に生徒が関心を持っているのか疑問を感じる内容もあった。
	(2)きめ細かな生活・学習・進路指導	①クラスが変わらないことを念頭に置いた人間形成 ②専門教科（数学・英語）履修の特徴を重視した指導	Ⅰ	〇交流会やサマーキャンプを実施し、学年の横のつながりとともに縦のつながりを作ることができた。 ▲サマーキャンプについては目的を再度検討し、内容の更なる充実を図りたい。 ▲学力向上に向けたフロンティア科ならではの取組（専門教科の更なる充実等）がもっと必要である。	3	3.1	
	(3)上位者指導	①難関大を目指す生徒の集団作り ②大学訪問 ③個別指導の充実 ④台湾研修やプログラムを活用した海外留学と研修	Ⅰ	〇学習量調査や模試成績の分析を実施したり、駿台模試等のレベルが高い模試の受験指導を実施した。 〇九州医療科学大学、宮崎大学、立命館アジア太平洋大学に訪問し、生徒の意識を高めることができた。 ◎NPJ（フロンティア科中心に受入）、TISP（2名参加）、台湾研修（2月実施予定）などのプログラムを実施することができた。	3	3.4	
	(4)広報活動の充実	①本校の普通科生徒や職員へのフロンティア科の取組の発信 ②中学校説明会や塾訪問、オープンスクールや学校公開日でのPR ③フロンティア科通信、日向高校ＨＰの充実 ④最終発表会への本校普通科生徒、中学生や保護者の招待	Ⅲ	◎1年生ではフロンティア科と普通科で合同の探究発表会を行い、お互いの取組を知る機会を設けた。 〇１・２学期に中学校説明会、塾訪問を実施しPRした。 〇フロンティア科通信は5号発行し、中学校に送付した。 ▲最終発表会は平日に開催したこともあり中学生が見に来ることができなかった。来年度に向けての課題である。 ▲ＨＰでのフロンティア科の取組の発信、小中学校へのＰＲをさらに充実させたい。	3	3.3	